中医学いろはにほへと

どうやって診たてるの？ ～弁証論治～

前号「四診」

前回は四診でどうやって情報をあつめるか勉強したね。今回はその情報を実際にどうやって処理していくか勉強するピャよ！

福（フク）
ゆるっと養生先生中医学が大好き稲田の相棒。
口ぐせは「ピャ」

Q 四診（ししん）で集めた情報が多くてバラバラになっています。
どこから手をつけて「証（しょう）」を判断すればいいですか？

A そのためにあるのが**弁証法（べんしょうほう）**だよ！
弁証法は情報を**システマチックに処理**して証にいきつくことが出来る！
八綱弁証（はちこうべんしょう）・**気血水弁証**（きけつすいべんしょう）・**臓腑弁証**（ぞうふべんしょう）をよく使うよ！

～弁証論治の流れ～

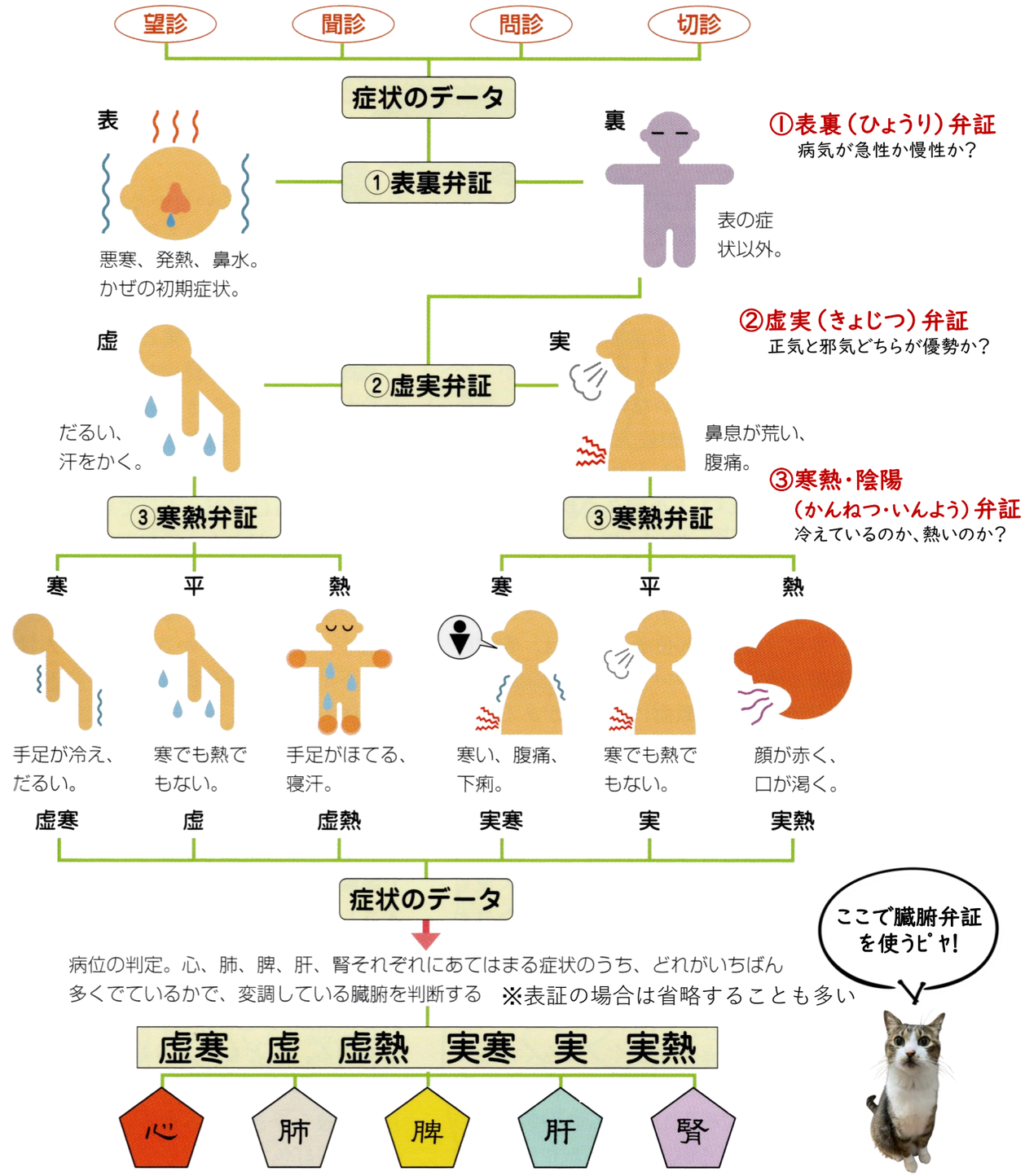
八綱弁証で何によって（病因）、どこが（病位）、どうなっているか（病態）を分析。病気の性質を決める気血水弁証や臓腑弁証を合わせて「証」を決める。

患者 → 四診 → **弁証** → 論治 → 処方

- 四診：●望 診 ●聞 診 ●門 診 ●切 診
- 弁証：＊八綱弁証＊ ①表裏弁証 ②虚実弁証 ③寒熱弁証（陰陽弁証） ☆気血水弁証 ☆臓腑弁証
- 論治：●治則・治法
- 処方：●漢方薬の選定

今回勉強するのはここピャ！

弁証論治の流れ



ポイント！ 複雑な証の診立てをシンプルに整理できる「八綱弁証」。基本の考え方は**「陰陽」**。どちらに偏っているかを見極めバランスを「元に戻す=整える」。**バランスが整えばカラダは勝手に元気になる**。みんなの元気になる力を引き出すんだピャー!!

練習してみよう

例）この昼間から急な喉の痛み。ヒリヒリして水を飲みたい。高熱。寒気はほとんどない。汗はかかない。※答えは下に↓

～「練習してみよう」のこたえ～ ①表裏⇒今日の昼⇒急性⇒表 ②虚実⇒汗はかかない・急に⇒邪気が優勢⇒実 ③寒熱⇒喉の痛み・ヒリヒリ・水を飲みたがる・寒気はほとんどない⇒熱証 臓腑→喉→肺/弁証：風熱犯肺（ふうねつはんはい） 論治：辛涼解表（しんりょうげひょう） 処方：銀翹散（ぎんぎょうさん）